

貝月山 1234m・山スキー報告 平成22年1月11日(月)

メンバー:YN、KO(記)

天候:晴れのち曇り

コースタイム:日坂ゲレンデ場第1ペアリフト終点(8:45-9:00)～ふれあいの森(10:10-10:25)～日越峠
11:15～山頂(12:20-12:40)～1120m 地点(12:55-13:05)～坂内スキー場(13:40-14:40)
～日坂ゲレンデ場第1ペアリフト終点(14:55-15:05)～駐車場 15:20

概要:昨日はT夫妻と共にシャルマン火打でオフピステ滑降を楽しみ、夜に揖斐高原スキー場まで移動した。かなり強行軍の移動となった。

昨年は雪不足のため不満足な山スキーであったが、今回、雪はたっぷりあった。ところがこのところのスキー場の経営難のため、4本あるリフトのうち2本が運休、日阪リフト2本だけの運行となっていた。そのため、今回はスキー場から左回りの周回コースを予定していたが、コースを日越峠経由の右回りに変更せざるを得なかった。私は、こちらからは初めてなので期待感を持って臨むことが出来た。

運行している第1ペアリフトに一番乗りで乗車し、終点で準備。私はミニスキーを、YNさんはスノーシューを付けて歩き出す。すぐ隣にある坂内ゲレンデは閉鎖していて、搬器のないリフトや立派な建物が不釣り合いな光景をつくっていた。林道の積雪は数十cm以上、快適にシール登高を行い、ふれあいの森に着いた。ここは別荘地になっており、高度は800m程あり入り口にはゲートが設けられていた。ここでしばらくYNさんを待つが、この先は時間のこともあるため、待たずに先行することにした。

品又谷に沿って林道はさらに先まで続いており、シールラッセルしながら遡る。無積雪期には林道途中から階段を上がる山頂直登コースがあるようであるが、雪が多くトレースもないためどこが入り口がよく分からなかった。そのままさらに林道を詰め、日越峠1020mを目指した。ところどころ林道が急な雪壁になっていた。綴れ織りの道を登ると雪に埋もれた休憩小屋があり、やがて林道は終わり、日越峠の看板が見つかった。

頭上を見上げるとかなりの急斜面、ところどころ深いラッセルに悩まされながら、右に伊吹山系を見ながら尾根伝いに登っていく。登り詰めた1150m付近からは傾斜も落ち、歩きやすい尾根となる。帰りの滑りが楽しみである。休まず先を急ぎ、12時20分、見慣れた展望台が目に入り、山頂に達した。

雪が多いため、展望台は階段3段を残してすっかり埋まっていた。昨年とは大違いである。板を脱いで展望台に上がり、加越国境の山々や、金糞岳など伊吹山脈の雄大な展望を満喫した。昨年沢登りで登ったブンゲンや虎子山、国見岳、眼下に国見スキー場などが望めた。雪が深いせいも、今日の登山者はゼロ、どこにもトレースはなく、私だけの独壇場であった。天気もまずまず、今シーズンの山スキー始めとしては申し分がない。

山頂で20分程過ぎて下降に移る。トレース近くの新雪にシュプールを刻みながら少し下ると、眼下にYNさんが見えた。雪は重たいが快適に滑降、1120m付近でYNさんと出会う。これから先の行動を打ち合わせ、帰りの時間的なことも考えて、YNさんも一緒にここから下ることになった。こちらは一気に日越峠に向けて100m程滑降。短い楽しい滑りであった。そして、これより先は長い林道をひたすらまっすぐ滑るだけ。人気のない坂内ゲレンデに戻り、YNさんの到着を待った。今日は天候に恵まれたますますの山スキーとなった。



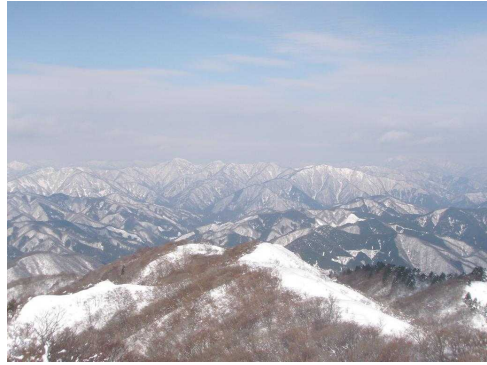
貝月ペアリフト終点



YNさんはスノーシュー



休止中の坂内スキー場



日越峠



貝月山頂上



国見岳スキー場と国見岳 プンゲンを望む